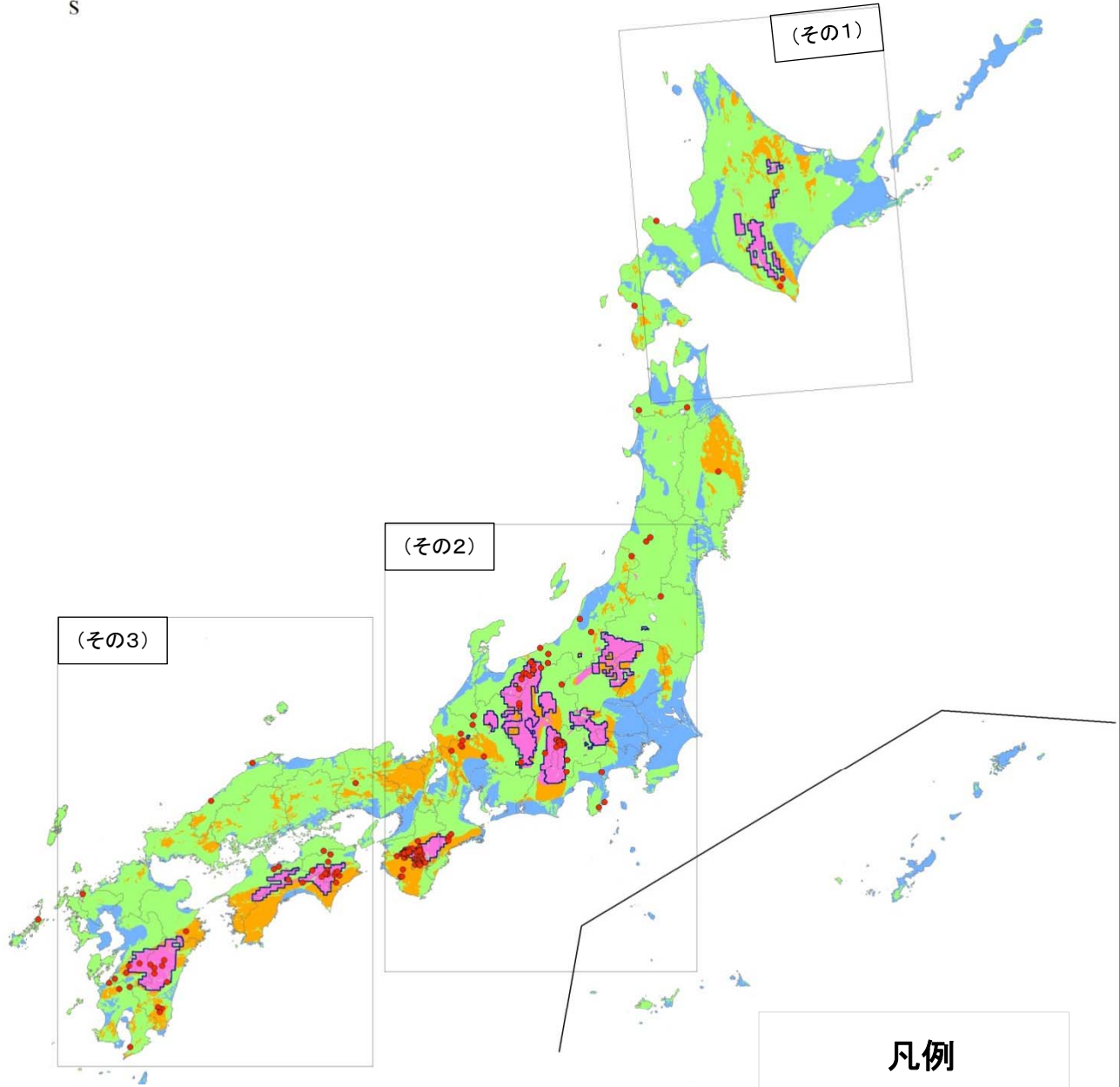


深層崩壊 跡地密度分析区域図

(資料3)

～推定頻度が「特に高い」地域の評価～



<注釈>

- 1.この深層崩壊跡地密度評価区域図は、平成22年8月に国土交通省砂防部・(独)土木研究所より発表された「深層崩壊推定頻度マップ」において、推定頻度が「特に高い」とされた地域を中心に、国土交通省が土木研究所資料第4115号「深層崩壊の発生のある溪流抽出マニュアル(案)」(以下、マニュアル)を用いた調査で得られた深層崩壊跡地の判読結果に基づき全国で評価する範囲を示したものである。
- 2.ここでいう深層崩壊跡地とは、マニュアルで定める事項に加え、崩壊跡地の面積が1ha以上で、かつ崩壊面が深く削られているような地形とした。
- 3.深層崩壊跡地は、縮尺1/10,000～1/20,000程度の航空写真から判読したものであり、全ての深層崩壊跡地が網羅されているものではない。
- 4.深層崩壊跡地と考えられる地形の調査は現在も継続中であり、事例が追加された場合、図に示す調査範囲が変更される可能性がある。
- 5.深層崩壊188事例は、明治時代以降から平成22年度までの間において降雨等によって発生した深層崩壊と考えられる事例を示した。詳しくは以下URLを参照。
http://www.pwri.go.jp/team/volcano/deep_seated_landslides/deep_seated_landslides.htm

凡例

- 分析区域
- 深層崩壊188事例

<推定頻度(H22.8公表)>

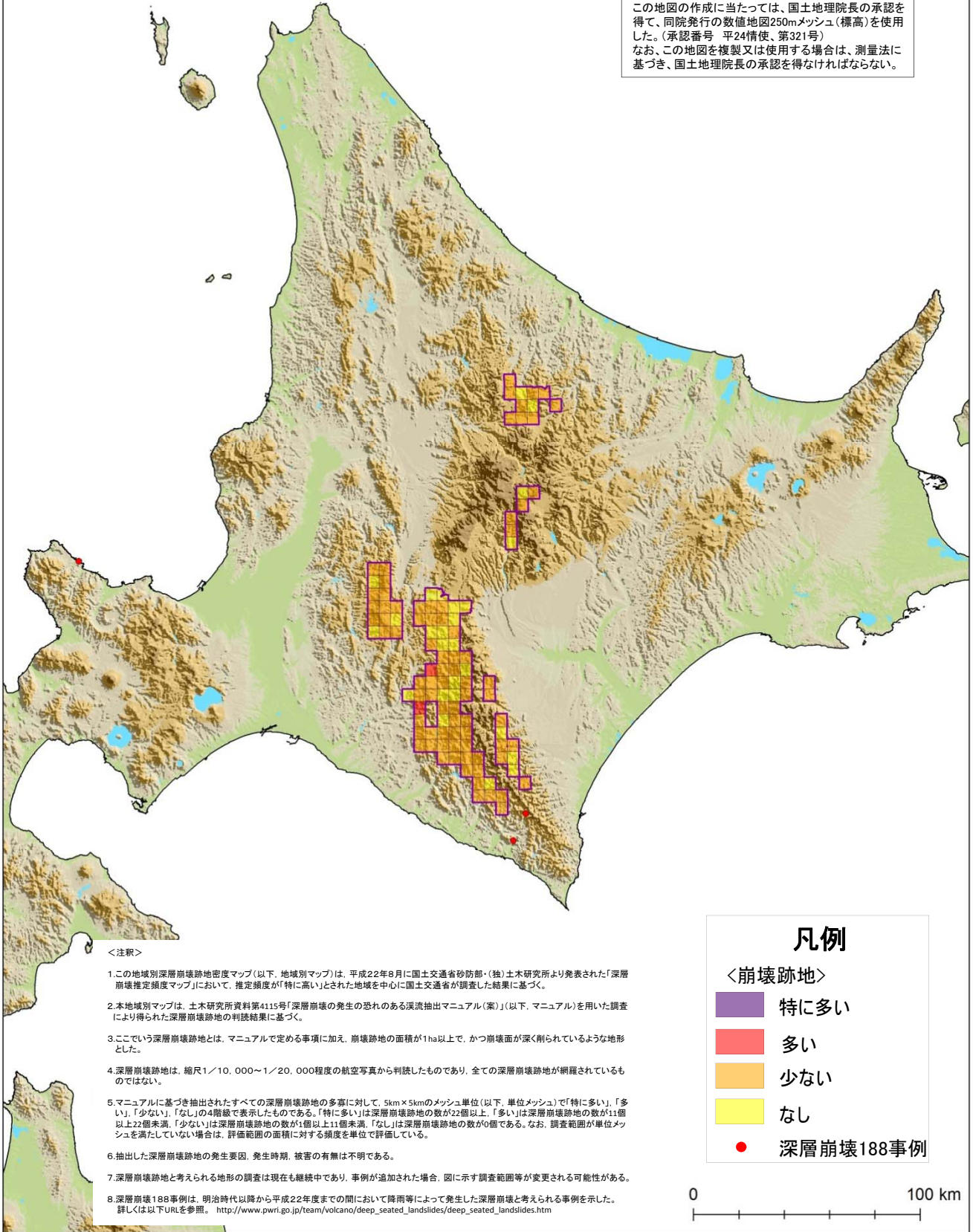
- 特に高い
- 高い
- 低い
- 特に低い

0 120 240 480 km



地域別 深層崩壊 跡地密度マップ(その1)

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図250mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平24情使、第321号)
なお、この地図を複製又は使用する場合は、測量法に基づき、国土地理院長の承認を得なければならない。



<注釈>

- 1.この地域別深層崩壊跡地密度マップ(以下、地域別マップ)は、平成22年8月に国土交通省砂防部(独)土木研究所より発表された「深層崩壊推定頻度マップ」において、推定頻度が「特に高い」とされた地域を中心に国土交通省が調査した結果に基づく。
- 2.本地域別マップは、土木研究所資料第4115号「深層崩壊の発生のある恐れのある渓流抽出マニュアル(案)」(以下、マニュアル)を用いた調査により得られた深層崩壊跡地の判読結果に基づく。
- 3.ここでいう深層崩壊跡地とは、マニュアルで定める事項に加え、崩壊跡地の面積が1ha以上で、かつ崩壊面が深く削られているような地形とした。
- 4.深層崩壊跡地は、縮尺1/10,000~1/20,000程度の航空写真から判読したものであり、全ての深層崩壊跡地が網羅されているものではない。
- 5.マニュアルに基づき抽出されたすべての深層崩壊跡地の多寡に対して、5km×5kmのメッシュ単位(以下、単位メッシュ)で「特に多い」、「多い」、「少ない」、「なし」の4階級で表示したものである。「特に多い」は深層崩壊跡地の数が22個以上、「多い」は深層崩壊跡地の数が11個以上22個未満、「少ない」は深層崩壊跡地の数が1個以上11個未満、「なし」は深層崩壊跡地の数が0個である。なお、調査範囲が単位メッシュを満たしていない場合は、評価範囲の面積に対する頻度を単位で評価している。
- 6.抽出した深層崩壊跡地の発生要因、発生時期、被害の有無は不明である。
- 7.深層崩壊跡地と考えられる地形の調査は現在も継続中であり、事例が追加された場合、図に示す調査範囲等が変更される可能性がある。
- 8.深層崩壊188事例は、明治時代以降から平成22年度までの間において降雨等によって発生した深層崩壊と考えられる事例を示した。詳しくは以下URLを参照。 http://www.pwri.go.jp/team/volcano/deep_seated_landslides/deep_seated_landslides.htm

凡例

<崩壊跡地>

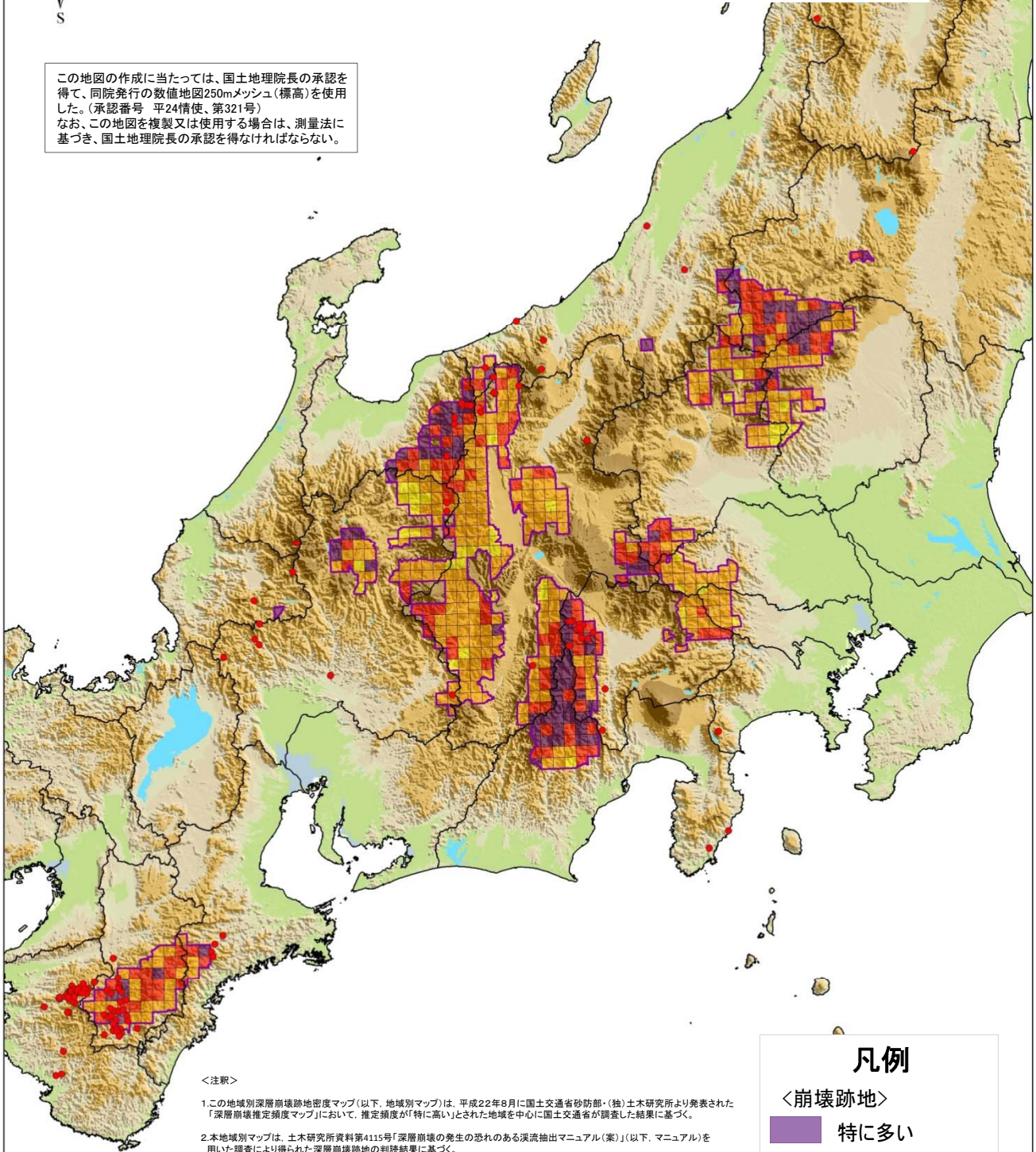
- 特に多い
- 多い
- 少ない
- なし
- 深層崩壊188事例





地域別 深層崩壊 跡地密度マップ(その2)

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図250mメッシュ(標高)を使用した。(承認番号 平24情使、第321号)
なお、この地図を複製又は使用する場合は、測量法に基づき、国土地理院長の承認を得なければならない。



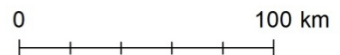
<注釈>

- 1.この地域別深層崩壊跡地密度マップ(以下、地域別マップ)は、平成22年8月に国土交通省砂防部・(独)土木研究所より発表された「深層崩壊推定頻度マップ」において、推定頻度が「特に高い」とされた地域を中心に国土交通省が調査した結果に基づく。
- 2.本地域別マップは、土木研究所資料第4115号「深層崩壊の発生のある溪流抽出マニュアル(案)」(以下、マニュアル)を用いた調査により得られた深層崩壊跡地の判読結果に基づく。
- 3.ここでいう深層崩壊跡地とは、マニュアルで定める事項に加え、崩壊跡地の面積が1ha以上で、かつ崩壊面が深く削られているような地形とした。
- 4.深層崩壊跡地は、縮尺1/10,000~1/20,000程度の航空写真から判読したものであり、全ての深層崩壊跡地が網羅されているものではない。
- 5.マニュアルに基づき抽出されたすべての深層崩壊跡地の多寡に対して、5km×5kmのメッシュ単位(以下、単位メッシュ)で「特に多い」「多い」「少ない」「なし」の4階級で表示したものである。「特に多い」は深層崩壊跡地の数が22個以上、「多い」は深層崩壊跡地の数が11個以上22個未満、「少ない」は深層崩壊跡地の数が1個以上11個未満、「なし」は深層崩壊跡地の数が0個である。なお、調査範囲が単位メッシュを満たしていない場合は、評価範囲の面積に対する頻度を単位で評価している。
- 6.抽出した深層崩壊跡地の発生要因、発生時期、被害の有無は不明である。
- 7.深層崩壊跡地と考えられる地形の調査は現在も継続中であり、事例が追加された場合、図に示す調査範囲等が変更される可能性がある。
- 8.深層崩壊188事例は、明治時代以降から平成22年度までの間において降雨等によって発生した深層崩壊と考えられる事例を示した。詳しくは以下URLを参照。 http://www.pwri.go.jp/team/volcano/deep_seated_landslides/deep_seated_landslides.htm

凡例

<崩壊跡地>

- 特に多い
- 多い
- 少ない
- なし
- 深層崩壊188事例





地域別 深層崩壊 跡地密度マップ(その3)

(資料3)

<注釈>

- 1.この地域別深層崩壊跡地密度マップ(以下、地域別マップ)は、平成22年8月に国土交通省砂防部(独)土木研究所より発表された「深層崩壊推定頻度マップ」において、推定頻度が「特に高い」とされた地域を中心に国土交通省が調査した結果に基づく。
- 2.本地域別マップは、土木研究所資料第4115号「深層崩壊の発生のある溪流抽出マニュアル(案)」(以下、マニュアル)を用いた調査により得られた深層崩壊跡地の判読結果に基づく。
- 3.ここでいう深層崩壊跡地とは、マニュアルで定める事項に加え、崩壊跡地の面積が1ha以上で、かつ崩壊面が深く削られているような地形とした。
- 4.深層崩壊跡地は、縮尺1/10,000~1/20,000程度の航空写真から判読したものであり、全ての深層崩壊跡地が網羅されているものではない。
- 5.マニュアルに基づき抽出されたすべての深層崩壊跡地の多寡に対して、5km×5kmのメッシュ単位(以下、単位メッシュ)で「特に多い」、「多い」、「少ない」、「なし」の4階級で表示したものである。「特に多い」は深層崩壊跡地の数が22個以上、「多い」は深層崩壊跡地の数が11個以上22個未満、「少ない」は深層崩壊跡地の数が1個以上11個未満、「なし」は深層崩壊跡地の数が0個である。なお、調査範囲が単位メッシュを満たしていない場合は、評価範囲の面積に対する頻度を単位で評価している。
- 6.抽出した深層崩壊跡地の発生要因、発生時期、被害の有無は不明である。
- 7.深層崩壊跡地と考えられる地形の調査は現在も継続中であり、事例が追加された場合、図に示す調査範囲等が変更される可能性がある。
- 8.深層崩壊188事例は、明治時代以降から平成22年度までの間において降雨等によって発生した深層崩壊と考えられる事例を示した。詳しくは以下URLを参照。 http://www.pwri.go.jp/team/volcano/deep_seated_landslides/deep_seated_landslides.htm

